

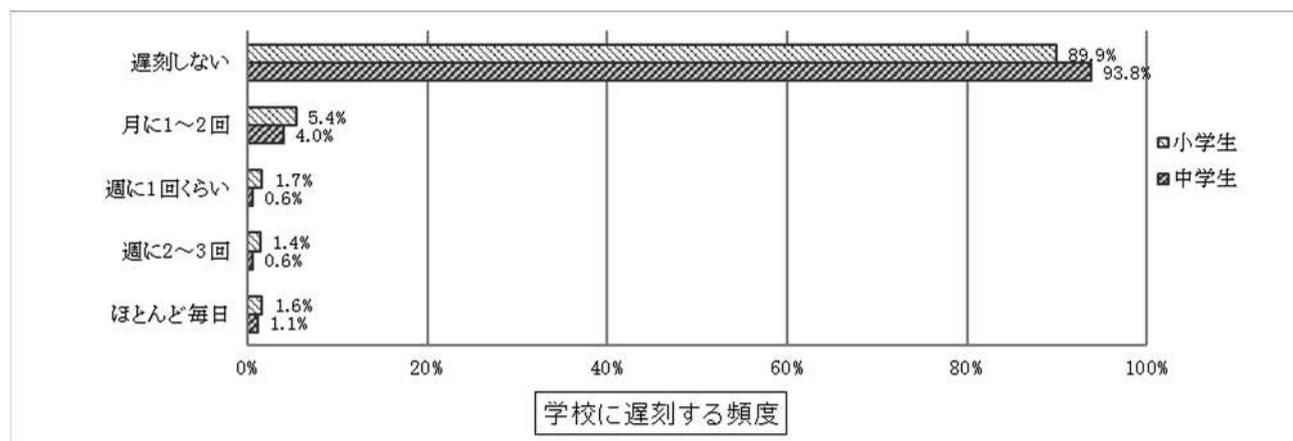
3. 学校生活と学業

問 11 あなたは、学校に遅刻することがありますか。

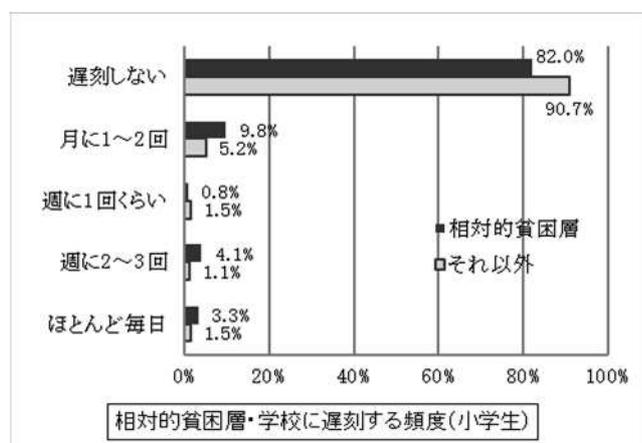
小学生、中学生ともに、「遅刻しない」という回答がおおよそ9割を占めています。「月に1～2回」という回答は、小学生で5.4%、中学生で4%でした。中学生では週に1回以上遅刻する人はほとんどいませんが、小学生では約5%います。

相対的貧困層では、小学生、中学生ともに「遅刻しない」の割合が「それ以外」に比べて、7～8ポイント低くなっています。

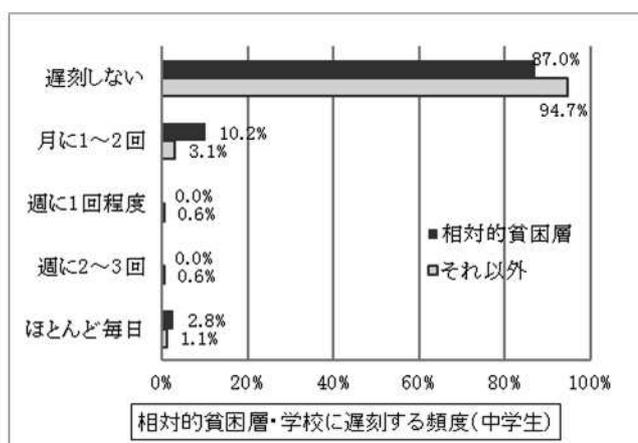
世帯類型別に見ると、「遅刻しない」という回答は、ひとり親世帯の中学生で88.2%と、ふたり親世帯(94.9%)よりも6ポイント以上低いことがわかります。



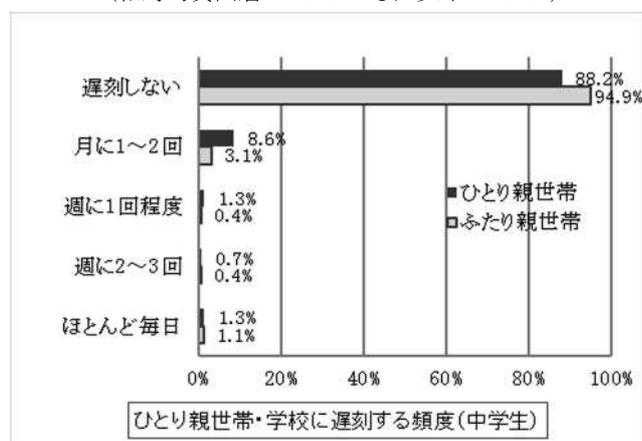
(小学生 N=1512 中学生 N=1080)



(相対的貧困層 N=122 それ以外 N=1231)



(相対的貧困層 N=108 それ以外 N=851)



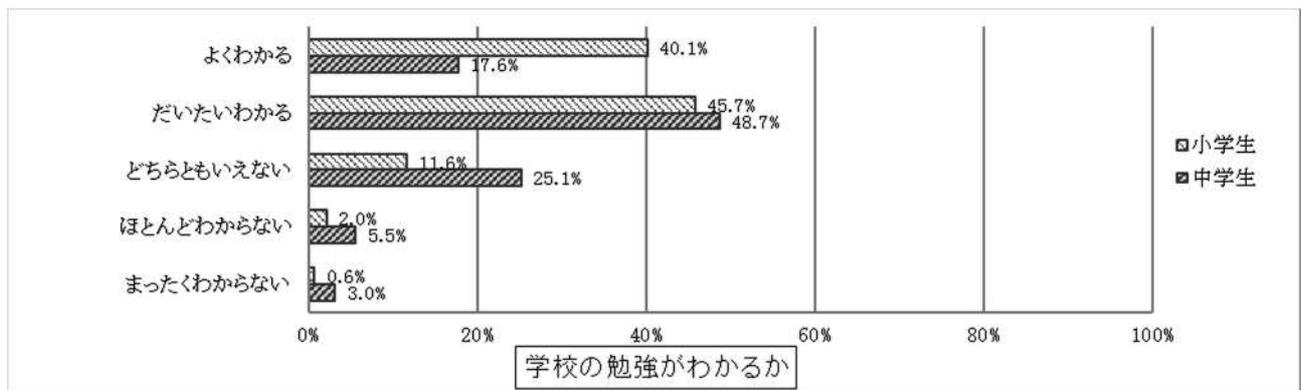
(ひとり親世帯 N=152 ふたり親世帯 N=895)

問 12 あなたは、学校の勉強がよくわかりますか。

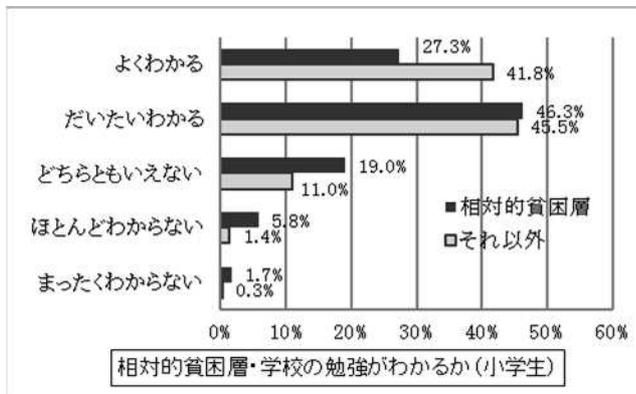
小学生、中学生ともに「だいたいわかる」がもっとも多く、「よくわかる」という回答も合わせると、小学生で 85.8%、中学生で 66.3%です。「ほとんどわからない」「まったくわからない」という回答を合わせると、小学生で 2.6%ですが、中学生では 8.5%に上ります。

相対的貧困層では、「よくわかる」「だいたいわかる」という回答の合計は、小学生で 73.6%、中学生で 51.3%といずれも「それ以外」に比べて 13~17 ポイント低く、「ほとんどわからない」「まったくわからない」という回答の合計は、小学生で 7.5%、中学生で 15.6%と、「それ以外」に比べて 5~8 ポイント高いことがわかります。

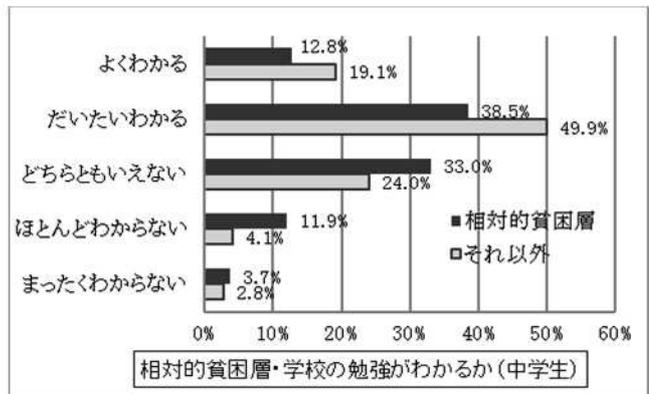
世帯類型別に見ると、「よくわかる」「だいたいわかる」という回答の合計は、ひとり親世帯の小学生で約 8 割、中学生で約 5 割と、ふたり親世帯に比べて低く、その差は中学生でより大きくなっています。ひとり親世帯での「ほとんどわからない」「まったくわからない」という回答の合計は、小学生で 5.3%、中学生で 16.4%と、ふたり親世帯に比べて高いことがわかります。



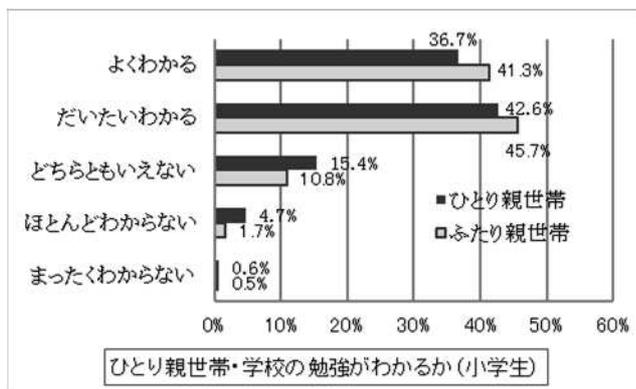
(小学生 N=1515 中学生 N=1083)



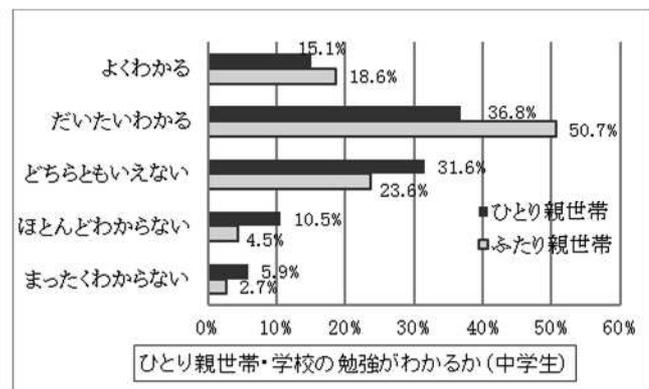
(相対的貧困層 N=121 それ以外 N=1235)



(相対的貧困層 N=109 それ以外 N=853)



(ひとり親世帯 N=169 ふたり親世帯 N=1292)



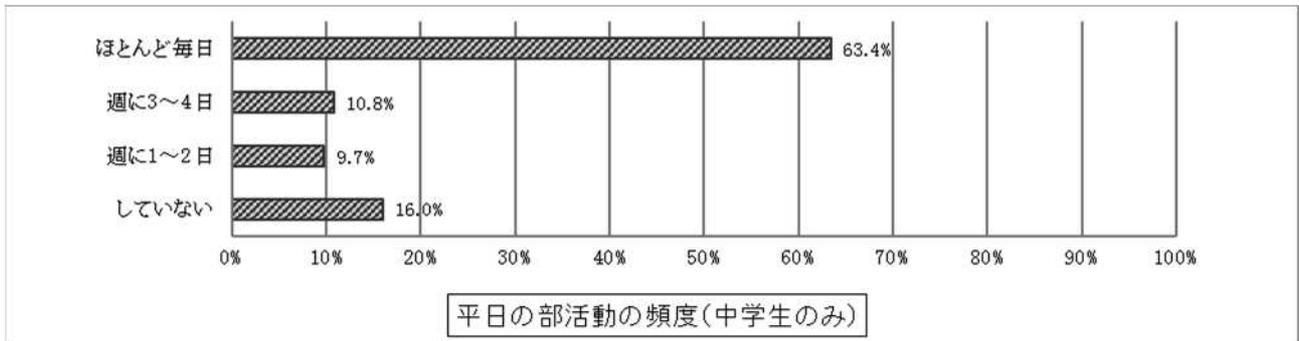
(ひとり親世帯 N=152 ふたり親世帯 N=898)

問 13 あなたは、平日にどれくらい部活動をしていますか。(中学生だけの設問)

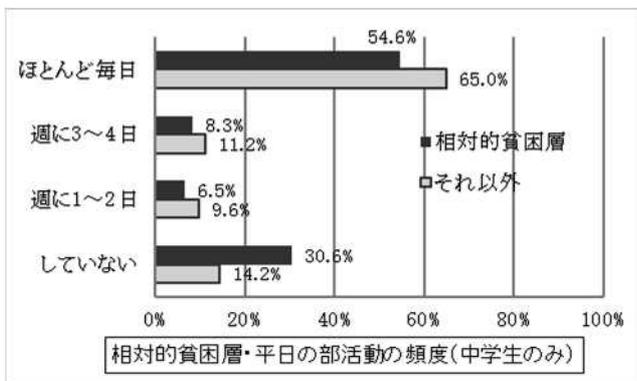
「ほとんど毎日」という回答が 63.4%でもっとも多く、「していない」という回答は 16.0%です。

相対的貧困層では、「ほとんど毎日」(54.6%)が「それ以外」に比べて約 10 ポイント低く、「していない」(30.6%)が約 16 ポイント高いことがわかります。

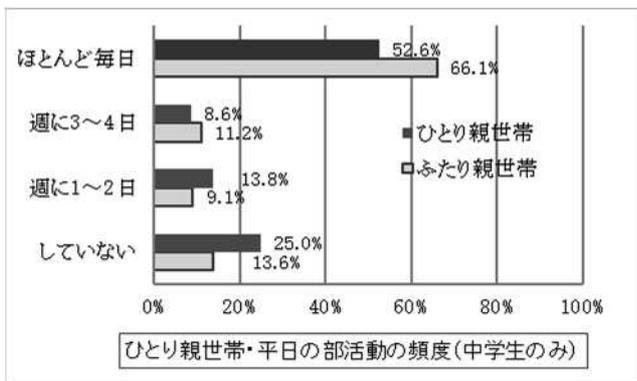
世帯類型別に見ると、ひとり親世帯では、「ほとんど毎日」(52.6%)がふたり親世帯に比べて約 14 ポイント低く、「していない」(25.0%)が約 11 ポイント高いことがわかります。



(N=1080)



(相対的貧困層 N=108 それ以外 N=851)



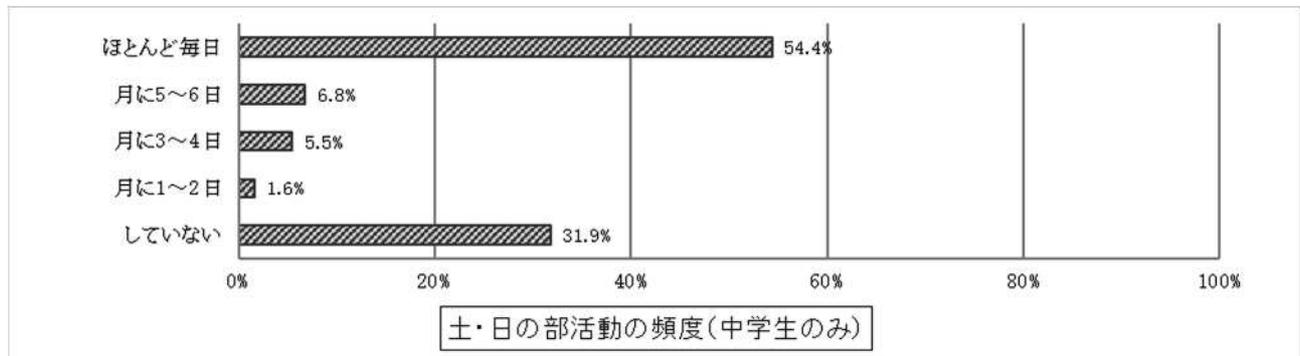
(ひとり親世帯 N=152 ふたり親世帯 N=895)

問 14 あなたは、土曜日や日曜日にどれくらい部活動をしていますか。(中学生だけの設問)

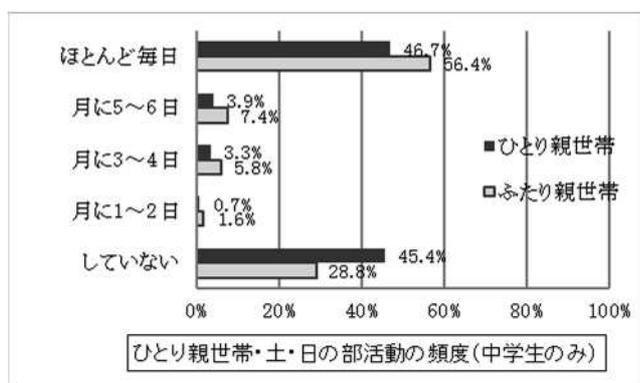
「ほとんど毎日」という回答が 54.4%でもっとも多く、「していない」(31.9%) がそれに続きます。土日が部活動にほぼ費やされる状況が、中学生の過半数に見られることがわかります。

相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。

世帯類型別に見ると、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べて「していない」(45.4%) が約 17 ポイント高いことがわかります。



(N=1080)



(ひとり親世帯 N=152 ふたり親世帯 N=895)

学校生活と学業<小括>

学校への遅刻については、小学生、中学生ともに「遅刻しない」という回答がおよそ9割で、遅刻しないことが基本的な生活習慣として確立していることがうかがえます。しかし、相対的貧困層では、小学生、中学生ともに「遅刻しない」という回答の割合は「それ以外」に比べて低くなり、世帯類型別ではふたり親世帯に比べてひとり親世帯で低くなっています。

学校の勉強がわかるかどうかについては、小学生、中学生ともに「よくわかる」「だいたいわかる」を合わせた「わかる」という回答が多いですが、小学生に比べると中学生ではその割合が低くなっています。また、相対的貧困層の小学生、中学生では「わかる」という回答の割合が「それ以外」に比べて低くなっており、「わからない」という回答の割合が高くなっています。その傾向はひとり親世帯でも同じです。

中学生では部活動への参加が活発に行われていますが、部活動への参加の状況は相対的貧困層では明らかに低く、ひとり親世帯でも同様に低くなっています。